

# たかつき市民活動ネットワーク NEWS

(NPO法人たかつき市民活動ネットワークの略称:TCAN)

2014.6.28 第45号

発行 : NPO法人たかつき市民活動ネットワーク

〒569-0078 高槻市大手町6-24

TEL/FAX: 072-674-1959

<http://homepage3.nifty.com/ca-minnanoi/>

## 2014年度通常総会報告

5月10日(土)午後1時30分より、高槻市立総合市民交流センター<クロスパル高槻>において2014年度通常総会が開催された。正会員総数56名中、出席者22名、委任状28名(書面表決者を含む)、合わせて50名の方が出席された。議長には鍵谷誠一さんが選出され、2013年度の事業報告、活動決算報告につづき、2014年度の事業計画、

活動予算が審議され、提案通り全会

一致で承認された。



## 【2014年度重点方針】

中期戦略 2013 のビジョンを踏まえ、2年目はコンパッション(思いやり)を絞り込み、思い込み・思い入れ(深く自耕すると気づかないことが分かり、人と話したくなり、自分のやってみみたいことが整理され納得いく活動につながる)を意識した活動をする。2014年度は事業の重点方針を以下の3点に絞り活動する。

- ①高齢化しつつある組織構造を若い中堅の年齢者が参加し易いものにシフトする。
- ②10年間蓄積した組織資源を活用し、地域社会への実験的な働きかけを行う。
- ③年間計画を意識し、事業間の連携を意図して相乗効果が期待される活動を優先する。



## 2014年度事業計画

### ◆市民活動への参加を促進する事業

- (1) 総会記念「市民が主役のまちづくりセミナー2014」の開催(5/10に開催済)<P-2に詳細>
- (2) 「市民ひろば“サロン・団談”」の企画・推進  
みんなの家を拠点に人が集まる空間を創造。  
各事業で課題になる問題を広く学習する。
- (3) 「食の文化祭～社会貢献のひろば2014～」の企画・運営

### ◆市民活動団体相互および市民・事業者・行政・地域社会との協働を促進する事業

- (1) 「コミュニティ・ビジネス研究会」の活動促進
- (2) 東日本大震災支援活動  
他団体と共同し、継続的な支援活動に取り組む

### ◆市民活動の環境を整備する事業

- (1) 北摂地域の市民活動支援組織の協力・協働事業  
市民活動の基盤を強化するための連携を強化する

### ◆市民活動に関する調査・研究・政策提言を行う事業

- (1) 「PPPつながりたい」事業  
議会が行った「議会のあり方検討会」の最終報告に対する意見集約など議会、自治体などとの連携・協働を促進する

### ◆市民活動拠点施設を管理運営する事業

- (1) 市民公益活動サポートセンターの運営参加
- (2) 市民活動センター「みんなの家」の運営参画

### ◆会員の拡大

インターネットを利用した会員拡大を目指す。

## 災害復興支援の取組みから平時のまちづくりを考える

5月10日の総会終了後、恒例の「市民が主役のまちづくりセミナー」が開催された。今年は、震災シリーズの3年目ということで、神戸新聞社会部デスク兼編集委員の磯辺康子さんをお招きして、「災害復興支援の取組みから平時のまちづくりを考える」のテーマで語っていただいた。

磯辺さんは、神戸新聞記者として阪神・淡路大震災にあわれ、その後ジャーナリストとして内外の自然災害の現場を取材されるほか、災害復興や防災、中でも被災者のメンタルケアについての調査や研究に携わってこられた、この分野のエキスパート。

まずは、阪神・淡路大震災とはどんな災害だったのかについて、①最も東の芦屋から最も西の明石まで、それぞれの地域にそれぞれの災害の特色があること、②倒壊したビルの数や死者の数は東灘区が一番多かったこと、③東日本大震災との違いは、東日本大震災が広域であり、津波被害、福島原発事故のトリプル災害であったのに対し、阪神・淡路は極所型で、都市化、高齢化した社会での災害であったこと、④これまでの防災は「火災を防ぐ」ものだったが、阪神・淡路大震災の死亡原因は窒息・圧死が大半であったこと、などのことを話された。

次に、復興19年間の歩みを時系列で説明されたが、震災のデータが確定するのに10年以上かかったというのは驚きであった。そのことからすると、東日本大震災についてさまざまなデータが確定するにはまだまだ時間がかかりそうだとのことであった。

その確定したデータでは、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人、住宅被害639,686棟ということであるが、これに含まれていない震災関連死者(自殺者を含む)・被害者も数多いとのこと。

加えて、避難所・仮設住宅・復興住宅でのさまざまな問題、生活再建や住宅再建の問題、被災者支援制度のあり方などについて具体的な例を挙げて分かりやすく話された。その教訓として、普段から考えておくべき事として、

①まずは「自分の命を守る」こと。そのことが人の命を守り、地域のひとを守ることにつながる。

②そのためには自分の家が倒れないように、できるだけ耐震にお金をかけること。

③誰もが「要援護者」になる可能性を持っていると同時に、子どもであっても「支援する側」になれること。

④本当に大事なものは発災直後ではなく、中長期的な暮らしの再建である。東日本はこれからが正念場である。といった点をあげられた。

質疑応答の中では、①自分が服用している薬の名前を言えるか。②NPOが支援できる工夫としての(外国人、独居の人など)対象を絞ったパッケージの準備。③備蓄物資のあり方などについて、参加者の体験からの貴重な話題も提供され、司会者の「真実は細部に宿る」の言葉で締めくくられた。



2014年度役員 理事長：山下征紀 副理事長：田中恵子、丸居美樹夫 事務局長：飯村六合夫

2014年度事業項目	担当
◇「市民ひろば“サロン・団談”」の開設	田中
◇食の文化祭～社会貢献のひろば2013～の企画・運営	佐藤、田中
◇「コミュニティ・ビジネス研究会」活動の促進	山下
◇東日本大震災支援活動	佐藤、飯村
◇北摂地域の市民活動支援組織の協力・共同事業	牧口(佐藤、飯村)
◇「PPPつながりたい」事業	山下、西村、丸居
◇市民公益活動サポートセンターの運営参加	飯村
◇市民活動センター「みんなの家」の運営参加	飯村、田中
◇会員拡大活動	日比
◇会報(TCAN NEWS)企画・編集・発行	丸居、牧口

### 第3回、CB研究会「仲間からの発信」③

CB研究会は6月18日みんなの家にて開催、参加者は8名であった。

まずは、高槻里山ネットワーク会長の岡野光伸さんが「高槻里山ネットワークの活動風景」を発信。森林組合の要請もあり平成14年に森林ボランティアとして立ち上げた。高槻には放置山林が多い。目下会員は60名で、女子会が誕生し竹を使った容器に抹茶を点て評判がよい。活動は北部の楊梅山国有林の間伐作業や下草刈り、散策道の管理維持に力を注ぐ。春には幼稚園や保育園の子ども達と



筒(たけのこ)掘り、小学生の探検入山を受け入れる。七夕が近づくとNEXCO西日本

の竹林から笹を間伐し、JRの歩道橋の上で市民に配布する。「沢山の市民とつながって豊かな里山を保持し次世代に引き継ぎたい」と、思いは深い。

続いて、(株)ビーバーム代表取締役・藤田精二さんが「我が事業のメッセージ」を発信。社名は花言葉“安らぎ”の意味だそうだ。会社員時代のキャリアを活かした経理事務処理、及び趣味の世界とつながったネットショップの経営である。「今後はコミュニティとつながる事業に焦点を絞ったNPO法人の会計の実態を学び、その分野に絞り込んだわかりやすい教材ソフト等、隙間を埋める(ニッチな)展開を目指したいと意気込みを語る。会計報告がなされていないNPO法人が2~3割あると聞く。参加者の中から社会福祉法人も同じような事で困っている。ニーズはあるのでは、との意見もあがっていた。

#### 「PPPつながりたい」の活動

政策提言が多かった昨年だが、言い放しがいけない。提言した内容をどうしたらわかりやすく伝えられるか。他の自治体の事例を高槻市に当てはめてみる研究。その気になって支援してくれる仲間を増やす。そのためのロビー活動も必要になろう。そんなことを話し合っ

て行った。日経グローバルの改革番付9位の会津若松と502位の高槻市議会を比較しての勉強会である。この白書には「見て 知って 参加するための手引き書」とサブタイトルが付いているだけに、市民目線を意識したものである。このバックボーンに「議会基本条例」がある。条例の5条展開で「広報広聴委員会」を立ち上げ、意見交換会で徹底的に市民参加を行っていることが素晴らしい。

(仮称)安満遺跡公園整備室が「市民活動プロジェクト」メンバーを募集した。TCANの会員にメーリングリストで応募を呼びかけ、2名の方の参加が決まった。市民参加のカタチを意識した活動をしていきたい。

#### 映画『ワーカーズ』高槻上映会の報告

6月15日クロスパル高槻にて、映画『ワーカーズ』高槻上映会が開催され64名の参加があった。

映画『ワーカーズ』は、働く人たちが出資し、地域で必要とされる事業を立ち上げて営む「協同労働(ワーカーズコープ)」の姿を記録したドキュメンタリー映画。主な舞台は東京スカイツリーがそびえる墨田区。少子化や高齢化、つながりの希薄化などといった地域が抱える課題に、ワーカーズコープが取り組む様子が描かれている。

映画で描かれるワーカーズコープの日常は決して華やかではないが、地域でつながりながら生きる安心感や、働くことで「社会に必要とされている」という生きがいを得ている様子が伝わってきた。

映画上映の後には、龍谷大学の筒井のり子さんをお招きして『新しい働き方、新しい事業のあり方で、地域課題に取り組む』というテーマでご講演いただいた。

筒井さんは映画の感想、映画に出てきた地域課題や解決方法などについてお話をされ、この映画が描こうとした意味が理解できた。



## コラム 「思い込み、思い入れ」こと

今年のTCANの会員向けメッセージは「思い込み、思い入れ」である。それぞれ会員の立ち位置は違っても、生きていく形を探りつつ、不思議なご縁もあってかTCANという組織に繋がっている。このつながりを今一度「思い込み、思い入れて」いただき、自分探しや自分づくりのチャンスにさせていただきたいという、それこそ一方的なキーワードなのである。

幕末から明治期にかけての民権思想家・ジャーナリスト・政治家としてよく知られる中江兆民は「薄志弱行」、思いが薄く、弱いとやろうという気も起こらず結果も知れている、と言う。それはあらゆる事に言えることで、夢や希望を成就していくためにキーワードがある。今すべきことは何か。何から始めたらいいのか。多くの人は迷うかも知れないが、大事にしたいことはやはり、心から「好きだと思ふこと」からだと思ふ。話をするのが好き、お世話することが好き、感謝される自分が好き、と言った、自分が持っているものを惜しみなく世に活かし合って、悔いが残らぬよう、それぞれのライフステージでひとり芝居でもいいから勇気を持って関わって演じてみることだろう。「ほっといてよ」の声が聞こえる事を承知の上で、あえての発言である。

## 事務局だより

漸く、猫の手の必要性から解放されました。

4月初めの高槻市税制課や茨木市にある府税事務所に出向いての、「法人市民税・府民税」の減免申請からはじまり、5月上旬の総会資料作り、そして総会開催。それが終わると法務局北大阪支局(茨木)や高槻市役所コミュニティ推進室への 2013 活動報告書、活動決算書、財産目録などの提出。締めとして大阪ボランティア協会への登録団体情報の提供であった。弱体事務局体制では手十丁が必要で、口八丁はその次。「しんど」の一言である。協力者/後継者確保が必須課題である。何事も経験です。手伝うよ！と言って下さる方、乞う！ご連絡。募集します。

## 事務局雑感

定退者/高令者が社会生活をする上での心得要件は、『きょういく(⇒今日、行くところがある)、そして きょうよう(今日、用事がある)を持つこと』とか。また『字をかく(⇒文字・文章を書く、作ることによって脳を活性化させる)、汗をかく(⇒運動をすることにより、社会的体力を維持する)、恥をかく(⇒プライドを外し、社会生活に交わる)を旨とする “さんかくが大切”』という。これらが肝要と人から教えられている。そんな生活をめざしつつボランタリーな生活をしているつもりであっても、できてない部分が多い。同じ志の仲間の顔が見えなくなったりするとやはり寂しいもの。もの忘れが増えてくると軽度「認知症」かと少し心配になる。そんな中、仲間が増えることを只々望むばかりである。いろんな場で TCAN を PR していきたいもの。まずは行動をと思う。

## TCANの活動 (2014年5月～9月)

◇◇ 定例会議・会合 ◇◇ *すべての会議・会合は公開にて、傍聴・発言はOKです。*

●理事会(毎月第2木曜日); ①5/29(木)済み。②6/12(木)済み。③7/10(木)。④8/14(木)。⑤9/11(木)。

◆市民活動センターみんなの家・運営協議会(奇数月第3金曜日); 5/16(金)済み。7/18(金)。9/19(金)

◇◇ 行事会合 ◇◇

◆市民活動センターみんなの家・環境整備&麦の会パーティ; 5/24(土)済み。

◇『く食の文化祭> 社会貢献のひろば2014秋』実行委員会を開設します。継続こそ力です。

第6回美味しい!たかつき。<食の文化祭～高槻ジャズとグルメフェア2014～>とコラボする～社会貢献のひろば2014秋～の第1回実行委員会を7月30日(水)に予定しております。参加協力してください。

編集子 会報第45号をお届けします。今年度のTCANの活動を発信し、共に行動していただける方を増やしたい。志を同じくする市民の力で住み良いまちづくりに繋がれば良いなと思います。 丸居・牧口